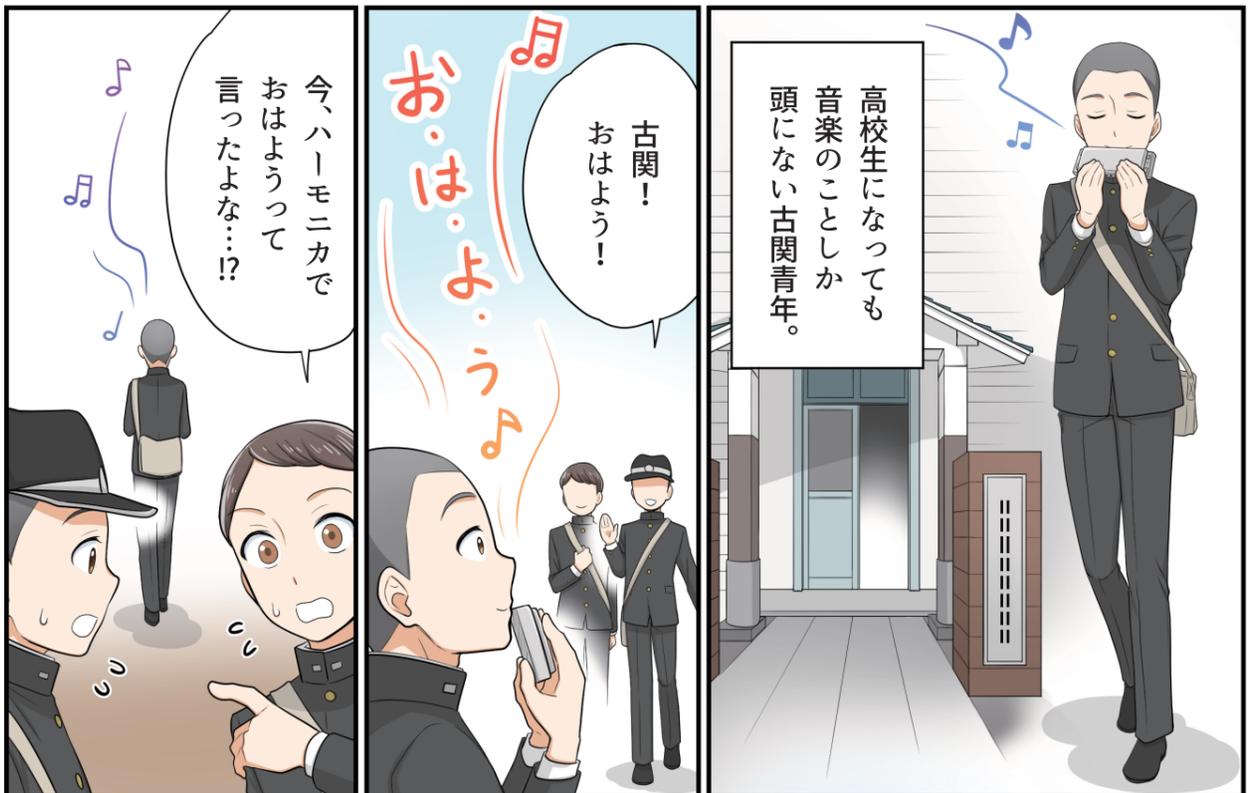


銀行で働いている最中も、仕事の書類に五線譜をはさんでこっそり作曲していました。



高校生になっても音楽のことしか頭にない古関青年。

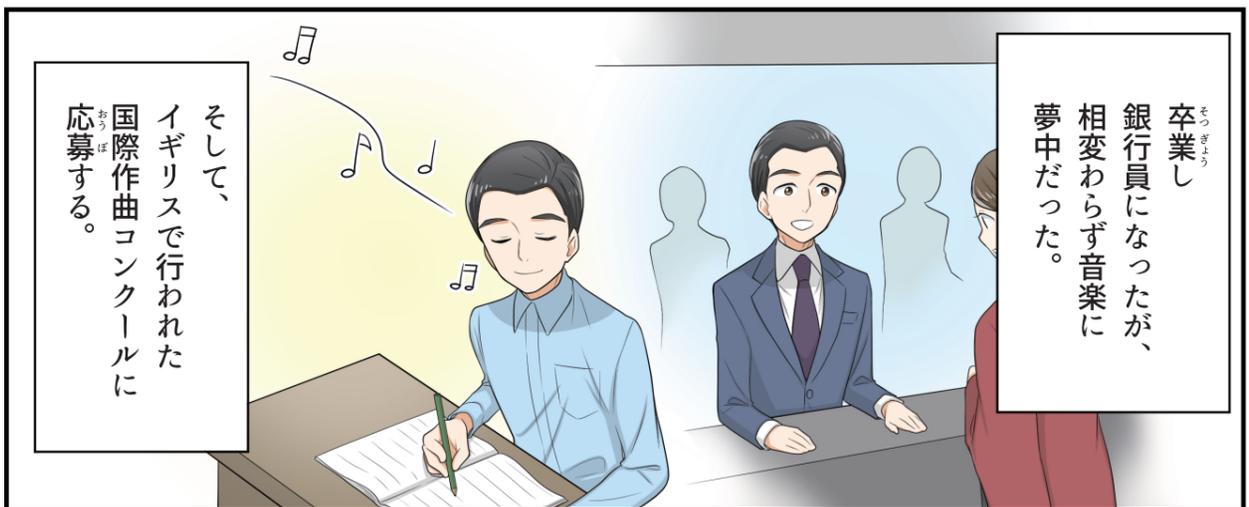
古関！
おはよう！

おはよう！
おはよう！

今、ハーモニカでおはようって言ったよな...!?

卒業し銀行員になったが、相変わらず音楽に夢中だった。

そして、イギリスで行われた国際作曲コンクールに応募する。



その時期、声楽家を目指すほど音楽好きだった内山金子は新聞で古関入選の記事を目にする。

コンクールで入選！
この人、すごい！



あなたの曲をいつの日か歌ってみたいです

金子は、古関の偉業に感動しファンレターを送ることにした。



文通をする仲になり、その後二人は結婚。

夫婦共々東京へ飛び立ち、古関は作曲家として活動する道を選んだのだ。

これからは音楽だけに集中しよう。たくさん、いい曲を作らなきゃな！



しかし、日本は、その後第二次世界大戦に突入する...

依頼される曲の多くは戦争にまつわる曲が多くなってきた。

若い頃のように楽しい音楽が作りたいのになあ...



金子との文通は、わずか3ヶ月の間にトランクいっぱいになる程たくさんやり取りをしたそう。